

連結財務書類

連結財務4表の範囲は、一般会計等、公営事業会計、一部事務組合（宮古地区広域行政組合、岩手県沿岸知的障害児施設組合、岩手県市町村総合事務組合、岩手県後期高齢者医療広域連合）及び第三セクター（株宮古地区産業振興公社、株新里産業開発公社、株川井産業振興公社、株グリーンピア三陸みやこ、有川井交通）となっています。

なお、対象となる会計間で取引があった場合、その収入及び支出をそれぞれの会計及び団体から相殺消去しています。

また、会計・団体間に出資などの関係がある場合、貸借対照表上でもそれぞれ相殺消去しています。

1 連結貸借対照表

令和3年度末現在の連結貸借対照表の状況は、下記のとおりです。

【資産】	298,857,156 千円
【負債】	84,912,936 千円
【純資産】	213,944,219 千円

資産の内訳は、下記のとおりです。

【固定資産】	282,327,225 千円
【流動資産】	16,529,930 千円

負債の内訳は、下記のとおりです。

【固定負債】	77,470,675 千円
【流動負債】	7,442,262 千円

これらを市民一人当たりへ換算すると、下記のとおりとなります。

【資産】	6,129 千円		
【負債】	1,741 千円	(参考)	594 千円 (※)

(※) 地方債残高から地方交付税算入見込額を控除した実質的な負債額

【純資産】	4,388 千円
-------	----------

(※令和4年3月31日現在の住民基本台帳人口・・・ 48,761 人)

貸借対照表の分析

(1) 住民一人当たり資産額

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり資産額} &= \frac{\text{資産 (298,857,156 千円)}}{\text{人口 (48,761 人)}} \\ &= 6,129 \text{ 千円} \end{aligned}$$

(2) 有形固定資産の行政目的別割合

生活インフラ・国土保全	39.0%	教育	12.0%
福祉	1.2%	環境衛生	8.9%
産業振興	27.7%	消防	1.4%
総務	10.3%		

(3) 歳入対資産比率

$$\begin{aligned} \text{歳入対資産比率} &= \frac{\text{資産 (298,857,156 千円)}}{\text{歳入合計 (65,811,478 千円)}} \\ &= 4.5 \text{ 年} \end{aligned}$$

(4) 資産老朽化比率

$$\begin{aligned} \text{資産老朽化比率} &= \frac{\text{償却資産減価償却累計額} \quad (\quad 270,707,033 \text{ 千円})}{\text{償却資産取得価格等} \quad (\quad 480,174,245 \text{ 千円})} \\ &= 56.4\% \end{aligned}$$

(5) 純資産比率

$$\begin{aligned} \text{純資産比率} &= \frac{\text{純資産} \quad (\quad 213,944,219 \text{ 千円})}{\text{資産} \quad (\quad 298,857,156 \text{ 千円})} \\ &= 71.6\% \end{aligned}$$

(6) 社会資本等形成の世代間負担比率 (将来世代負担比率)

$$\begin{aligned} \text{将来世代の負担割合} &= \frac{\text{地方債} \quad (\quad 47,795,652 \text{ 千円})}{\text{有形・無形固定資産} \quad (\quad 275,601,743 \text{ 千円})} \\ &= 17.3\% \end{aligned}$$

(7) 住民一人当たり負債額

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり負債額} &= \frac{\text{負債} \quad (\quad 84,912,936 \text{ 千円})}{\text{人口} \quad (\quad 48,761 \text{ 人})} \\ &= 1,741 \text{ 千円} \\ &\quad (\text{参考}) \quad 594 \text{ 千円} (\text{※}) \end{aligned}$$

(※) 地方債残高から地方交付税算入見込額を控除した実質的な負債額

2 連結行政コスト計算書

令和3年度の連結行政コスト計算書の状況は、下記のとおりです。

【経常費用】	55,583,597 千円
【経常収益】	3,894,201 千円
【臨時損失】	2,180,670 千円
【臨時利益】	30,793 千円
【純行政コスト】	53,839,273 千円

(※純行政コスト＝経常費用－経常収益＋臨時損失－臨時利益)

経常費用の内訳は、下記のとおりです。(※括弧内は経常費用に占める割合)

【人件費】	7,274,689 千円	(13.1 %)
【物件費等】	18,854,341 千円	(33.9 %)
【その他の業務費用】	1,680,101 千円	(3.0 %)
【移転費用】	27,774,466 千円	(50.0 %)

純行政コストを市民一人当たりへに換算すると、下記のとおりとなります。

【住民一人当たり純行政コスト】	1,104 千円
-----------------	----------

(※令和4年3月31日現在の住民基本台帳人口・・・ 48,761 人)

行政コスト計算書の分析

(1) 住民一人当たり行政コスト

$$\begin{aligned} \text{住民一人当たり行政コスト} &= \frac{\text{純行政コスト} \quad (\quad 53,839,273 \text{ 千円})}{\text{人口} \quad (\quad 48,761 \text{ 人})} \\ &= 1,104 \text{ 千円} \end{aligned}$$

(2) 行政コスト対税収等比率

$$\begin{aligned} \text{行政コスト対税収等比率} &= \frac{\text{純行政コスト} \quad (\quad 53,839,273 \text{ 千円})}{\text{財源} \quad (\quad 49,182,416 \text{ 千円})} \\ &= 109.5 \% \end{aligned}$$

(3) 受益者負担の割合

$$\begin{aligned} \text{受益者負担の負担割合} &= \frac{\text{経常収益} \quad (\quad 3,894,201 \text{ 千円})}{\text{経常費用} \quad (\quad 55,583,597 \text{ 千円})} \\ &= 7.0 \% \end{aligned}$$

3 連結純資産変動計算書

令和3年度の連結純資産変動計算書の状況は、下記のとおりです。

【期首純資産残高】	・ ・ ・ ・	215,125,403 千円
【当期増減額】	・ ・ ・ ・ ・	△ 1,181,184 千円
【期末純資産残高】	・ ・ ・ ・	213,944,219 千円

純資産が減少したのは、有形固定資産等の減少や、貸付金・基金等の減少が主な要因です。

資産変動額を市民一人当たりには換算すると、下記のとおりとなります。

【住民一人当たり純資産変動額】	・ ・ ・ ・ ・	△ 24 千円
(※令和4年3月31日現在の住民基本台帳人口	・ ・ ・ ・	48,761 人)

4 連結資金収支計算書

令和3年度の全体資金収支計算書の状況は、下記のとおりです。

【期首現金預金残高】	・ ・ ・	5,340,721 千円
【当期増減額】	・ ・ ・ ・ ・	△ 1,250,149 千円
【期末現金預金残高】	・ ・ ・	4,090,572 千円

期末資金残高を市民一人当たりには換算すると、下記のとおりとなります。

【住民一人当たり期末資金残額】	・ ・ ・ ・ ・	84 千円
(※令和4年3月31日現在の住民基本台帳人口	・ ・ ・ ・	48,761 人)